

国語(小)教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	文学的文章教材における『協働的な学び』の取り入れ方の工夫	
日時	令和8年7月10日(金)	
会場	北広島市立東部小学校	
講師	青山 由紀 氏(淑徳大学 教授)	
参加者	73名	
研修会 の 様子		<u>①比較読書の特設授業</u> 東部小学校4年生児童を対象に、比較読書の特設授業を行っていただいた。「スイミー」と「あいうえおのき」という『レオ＝レオニ』の二作品を読み比べ、共通点を探す、という内容。1人の作業からペア学習と、子どもたちは対話をしながらたくさんの共通点を見つけていった。共通点を、場面ごとに並べていくと、最後には文章構造が見えてくるという授業展開であった。
		<u>②特設授業事後研</u> 低学年用の教材でも、中学年、高学年と、違う目的で読むことができる。共通点を見つけていく過程では、細かい部分は省かれて、抽象度の高い情報だけが残ることで、文層構造が浮き彫りになっていく。「どちらも」という言葉を使わせたことも余計な言葉を省く意図があった。また、ペア学習で考えを広げたが、1～4年生は、「コレクター世代」。増えることに喜びを感じるので、まねて増やす活動が効果的であることがわかった。
		<u>③研究テーマに沿った講演会</u> 協働的な学びに对话は有効な手段であるが、そのために児童に付けさせたい力は、第一に聞く力である。第二に話す力。聞いて話すことができこそ、对话が成立し、そのための前提として語彙力も必要となる。そういった力を育てるため、普段から指導や経験を積み上げさせる。それを踏まえて、授業者は、授業の中で对话を取り入れる際、对话の意図は何か、児童にとって对话する価値のある話題になっているか等を考えて設定する必要がある。
		<u>④最近の子どもの実態について</u> 読書量が年々落ち、それに伴って語彙力が低下していることや、算数の「等しい」という言葉の意味をわかっていない児童のパーセンテージが高いこと等が、あらゆる調査で明らかになっている。いわば、全ての学習の基礎となるべき国語力の低下が、他教科にも影響を与えているということ。このような実態を踏まえ、今後の国語教育をどのように展開していくか、考えていく必要がある。